



NPO日本朗読文化協会

朗読ニュース

2011年初夏号



第59回八重洲朗読会



ブランタン朗読会



成瀬朗読教室特別講座



ヒルズ・サロン朗読会



大宮研修会

第9回『朗読の日』

演出家からのメッセージ 飯田輝雄(演出家)

今、「イクメン」による読み聞かせが増殖中！・・・といっても「イクメン」とは皆さんの好きな「イクメン」と違って、育児をするMEN、子育てに熱心なお父さんのこと。子供に絵本の読み聞かせをするのは。そうやって育った子供は本が、そして音読することが当たり前のように好きになり、中学に「朗読部」ができ、AKB48のように「いつでも朗読が聴ける劇場」や朗読アイドルが登場する・・・かもしれません。

静かなブームとして愛されてきた朗読が、このところ漫画になったり、携帯ソフトになったり。ニューメディアを通じて、驚異的なスピードで広がっていることに、やや戸惑いながらもとてもワクワクしています。

その旗振り役として貢献されてきたのが、この日本朗読文化協会で活動する皆さん、そして今年もまもなくやって

くる「朗読の日」のイベントが一役買っているのを確信しています。今年も40作品以上が朗読され、6歳の少女から80歳を越える大ベテランまで100人近くが登場する舞台となります。

3. 11・・・あの未曾有の大震災以来、人生観や生活が変わったという人がいかに多いことか。被災された方には心よりお見舞い申し上げます。

被災地に絵本を贈ったり、読み聞かせのための俳優やボランティア活動も伝えられています。物語を声で表現し、読み聞かせる・・・そこにはぬくもり・・・心がある。そして世界で一つだけ、百人百様の表現が人と人の心をつなぎ、絆となる。

そんな朗読の持つ力、人間力を実感しながら今年も、来る「朗読の日」のイベントを手伝わせていただきます。東北の復興を祈りつつ、博品館から、がんばろう日本！の想いを発信できればと思っています。



第9回『朗読の日』プログラムより

6月18日(土)		6月19日(日)	
A ステージ MC長野	<p>11:00 (第一部)</p> <p>永井 喜代子 「ふたりぼっち」(平岩弓枝) 山村 都 「藤十郎の恋」(菊池寛) 岩瀬 弥永子 「雪女」(小泉八雲)</p> <p>12:00 (第二部)</p> <p>オリオン 「東慶寺花だより」(井上ひさし) 阿部惲奈、阿部義高、秋山道子、海老原美雪、坪谷美穂子、古内恵美子、宮崎弥生、村井佑子 白田 敦子「かぎりなくやさしい花々」(星野富弘)</p> <p>13:05 (第三部)</p> <p>中村 悦子「おじいさんのランプ」(新美南吉) 松森 世津子 「寒い母」(斎藤隆介) 相原碧子「紫上の生涯 若紫・御法巻」(紫式部) 安倍 眞壽美 「舌切雀」(太宰治) ■加賀美 幸子</p>	C ステージ MC飯島	<p>11:00 (第一部)</p> <p>長野淳子「父の詫び状」より お辞儀(向田邦子) 小黒三重子 「ジャンヌ・ダルク」(西澤實) 赤間 立枝 「ヒロシマの空」(林幸子) 宮下 郁子 「越前竹人形」(水上勉)</p> <p>12:00 (第二部) ~山本周五郎集~ 市原 タツ子 「よじょう」(山本周五郎) 小川 弘子 「糸車」(山本周五郎) 福本富美「将監さまの細みち」(山本周五郎) 坂本 有子 「鼓くらべ」(山本周五郎)</p> <p>13:10 (第三部)</p> <p>おとぼけ SUN (さん) 人衆「田辺聖子の今昔物語」(田辺聖子) 鈴木康之、植田聖子、西林千枝子 土岐 志のぶ 「パリの空の下」他 葛城 てる子 「杜子春」(芥川龍之介) 稲本 由美子 「お富の貞操」(芥川龍之介) ■加賀美 幸子</p>
	<p>16:00 (第一部)</p> <p>田中 邦子 「夜桜」(宮本輝) 高橋 愛子 「一枚の写真」(五木寛之) 中村美智子「日本語のおけいこ」(谷川俊太郎) 「60歳のラブレター」長野淳子、那須俊子、早川とし子、三上実枝子、山元智子</p> <p>17:05 (第二部)</p> <p>浅霧ひろみ「ラブ・ミー・テンダー」(江國香織) Voice K「ことばあそび」、「金子みすず」、「恋する伊勢物語」 浅見姫花、有田珠澄、小林莉子、深作テディ、山田舞衣、菅野洋一郎 上村美弥子、久木崎なお江、紺家裕子、橋本美佳、前尾津也子、飯島晶子、草野元紀、中川花乃</p> <p>18:05 (第三部)</p> <p>杉山 美智子「蠅」(横光利一) 吉田 周子 「死を賜る」(山本兼一) 松島 邦「いのちをいただく」(内田美智子) 望月 鏡子 「十三夜」(樋口一葉) ■加賀美 幸子と7名「枕草子」 飯島晶子、白田敦子、田中邦子、那須俊子、山村都、見澤淑恵、早川とし子</p>		<p>16:00 (第一部)</p> <p>佐々木 富紀 「じねんじょ」(三浦哲郎) 塩田 睦子 「赤毛のアン」(村岡花子・訳) 照井恒衛「ダイヤモンド」(寺山修二) 他 田中 泰子 「羅生門」(芥川龍之介)</p> <p>17:05 (第二部)</p> <p>松田 麗子「夏の葬列」(山川方夫) 「超訳 ニーチェの言葉」13人(フリードリヒ・ニーチェ) 赤間立枝、岩瀬弥永子、小川弘子、小黒三重子、高橋愛子、照井恒衛、長野淳子、中村美智子、早川とし子、藤沼昌子、松島邦、三上実枝子、山元智子 柴田 純子「わかれ道」(樋口一葉)</p> <p>18:05 (第三部)</p> <p>八木智子「智恵子抄」より (高村光太郎) 宮内 佳代子 「三日の暮色」(藤沢周平) 近藤 とうこ 「滝口入道」より (高山樗牛) 渡部玲子「赤いコート」の女(小池真理子) ■加賀美 幸子と7名 「枕草子」 相原碧子、青木ひろこ、秋山悦子、稲本由美子、小川弘子、古内恵美子、深澤真理子</p>
B ステージ MC安倍	D ステージ MC飯島		

○ 活動報告

かもめ第4回総会

4月25日、かもめ第4回総会が開かれました。毎月の例会時よりも多くの出席者に安堵。昨年度より、会計が協会に一本化された一年目という事もあり会計担当者は少し戸惑いもあったようですが、事務局との連携で今年度も訪問者への交通費も全額支給されました。今年の総会では、事前に行ったアンケートの結果を踏まえ、かもめ内の休会制度を設ける規約の改正が決定されました。長年に亘って培ってきたかもめの活動の蓄積とそれを支えている皆の力、新しく加わったメンバーの新鮮な意見も混ざり合い、それぞれの持っている力がより結集。勉強会の充実を踏まえ、朗読の向上ももちろん、今年度もボランティア活動そしてかもめ独自の朗読会の充実等を皆と共に推し進めていきたいと思います。この総会を終え改めて思いました。(渡部玲子)

大宮研修会

今年、1月25日、大宮の「いきがい大学伊奈学園朗読OB会」からのご依頼で、安田綾子、加藤敬子の二人で朗読をしてきました。65才～90才までの男女約60人(6割は男性)の参加者で、藤沢周平作「明烏」(安田)と芥川龍之介作「地獄変」(加藤)を朗読。「間」の語りに引き込まれた」「聞いていて、頭の中に映像が良く描けた」などの感想をいただいた。そして「そのためには、どのような心がけをしたらよいか」など読み手としての質問のほか、「一つの作品を読み始めるときに、どのように指導していくのか」など、日頃の朗読学習への関心の高さが伺える質疑応答に発展。熱い雰囲気での2時間でした。(加藤敬子)



第7回かもめ朗読会 (2月26日)



プランタン朗読会

3月11日大震災の日。児玉朗先生とクラスの5人は、プランタン朗読会の練習の為、新橋のぼるーんにいました。それから、わずか16日目。高輪区民センターホールの舞台上で、私達は詩人茨城のり子さんの好きだった詩と作品を朗読していました。震災後、児玉先生の「こんな大変な時にこそ朗読を」という強いご意思のもと練習。無事にプランタン朗読会が開かれ、多くのお客様がいらしてくださった事。又、城所ひとみ理事長はじめ、日本朗読文化協会の方々の温かいご協力を頂いた事に、私達は感謝の気持ちでいっぱいです。勿論、茨城のり子さんの「力強く人に勇気を与える作品」を表現しきれなかったという反省をしつつ。ありがとうございました。(児玉教室・西林千枝子)



ヒルズ・サロン朗読会

5月20日ハリウッド(株)共催の第1回ヒルズ・サロン朗読会をメイ・クラブサロンで行いました。お客様は30～80代までの28名。参加者全員が目線のワンポイント美容レッスンを楽しみ、変身。その後、時のパティシエ辻口氏のケーキを堪能。最後は個性豊かな黒川さんの「外郎売」、飯島晶子さんと匠つかささんとの息の合った「ピアフ愛の手紙」の朗読など、世情の喧騒を離れた午後ひと時をお楽しみ頂きました。お客様からは好評で、次回はお友だちを誘ってとの声も多く聞かれます。



次回は8月3日、朗読は小泉八雲特集です。(阿部俐奈)

成瀬朗読教室特別講座

「日本の美しい言葉」～新派のセリフ～ ゲスト 水谷八重子

5月8日(日)快晴・六本木ヒルズで開催されました。赤坂プリンスの被災された方も招待し70名の会場は満員。水谷八重子さんは、教室受講者とテキスト「滝の白糸」のさわりを朗読されたり、お芝居の裏話など成瀬講師との軽妙なトークに楽しいひとときを過しました。質問コーナーでは泉鏡花や新派について多数の熱心な質問や蘊蓄まで飛び出して盛り上がりました。尚、短期間の準備にも拘らず成瀬教室の皆様の献身的努力に対し感謝いたします。又素晴らしい会場準備・集客に多大なご協力をいただきましたハリウッド関係者さまに改めて感謝申し上げます。(山田和雄)



3. 11 その時。。



福島

600キロの避難

穴澤修子

音を立て天井から落ち割れるシャンデリア。グラリなどという生易しい揺れでは無い。その日その時、私は語りのイベント10周年会場下見の為会社のアトリエ2階に……。すぐさま緊急誘導。「頭を抱えて窓から離れて！」パリン、ガシャン、ガラガラと窓ガラスも展示の額も砕けて飛び散る。右に左に大きく体を揺すられ階下に降りる事など全く出来ずその場にしゃがみ込むのが精一杯というありさまでした。階段も壊れ外に出てみた光景は、N Z地震崩壊現場のようなビルの姿。青ざめた人の群れがそこにもここにも。道を塞ぐ段差やブロック塀の倒壊。ラジオからは逼迫した声、アナウンサーささえ叫ぶように早口でまくしたてていた雪交じりの寒い日でした。

翌日から勤務先で対策本部に詰め、もちろん操業不能。そのうち原発が爆発したと。当社は原発から48キロ。自宅待機となり換気扇へ目張りをして外出禁止。怯えながら万が一に備え避難の準備、刻々と押し寄せる不気味な報にまんじりともせず夜を明かします。情報操作か？ついに数日では戻れないと判断、飼猫も連れ子供2人と新潟経由で静岡富士へおよそ600キロの避難を決行。次いで3号機も爆発。なんとか高線量を回避したものの燃料補給も出来ない、更に次から次へと閉鎖されてゆくルート。ギリギリの選択と綱渡りの脱出劇となりました。今でも福島では放射性物質が土にも葉にも滞留。水や食材も直撃、勤務先の存続も危ぶまれるなど神経をすり減らしての生活です。

そんな中でたびたび何箇所かの避難所を慰問。半数は津波で自宅を流されその又半数は身内の誰かが行方不明という状態。避難所によって形態も雰囲気も様々。歌手としての選曲にも語りの演目にも普段のステージとは異なり細心の注意が必要です。全てを一旦回りご挨拶して状況を把握、決して自己満足にならぬようただひたすら心を耕すことに努めた気がします。自分はここにいる。誰かに知っていて見守っていてほしい。そんな願いが痛々しいほど感じられます。ご高齢のご夫妻は身寄りが無く私に娘になってくれと。それを聞いたあちこちで、じゃ、俺は兄に。おらは叔母さんになる。等、にわか親戚が大変増えました(笑)でも、軽く受け流しその場限りの約束にしてはなりません。本気で次を待っておいでです。次に来るねと約束したら何が何でも伺わないと。信頼と不安を消してわかってくれる人がいると伝えなくては。それだけで人は強くなれるのですから。五月連休になったら従兄弟が迎えに来るからとそれはそれは楽しみにしていたお爺ちゃんがありました。連休が過ぎ夜中のことです。泣きながら電話が。「迎えに来ない。電話も出ない」それだけ話すと後は声になりません。年老いて見捨てられまた体育館にたった一人でいつまでどうしたらいいんだと泣き続け……。どんなにかお辛く寂しい思いをされたのか……。胸切り刻まれる思いでした。泣き声をあげられる場所が体育館の外。段差のある階段を夜中におじいちゃんはそのでも私に電話をくれました。一筋の光と糸に

なれるなら。避難所通いの日々でした。人口何億という世界の中で今この現場に私はいます。どんなに綺麗な言葉を並べても本当のその人の言葉は、最後は行動です。今しか見えないここでしか見えない心の景色をよく見ておこうと思います。形だけの言の葉に酔うのではなく、魂を伝えるための語り手であるために。柔らかく温かに固く閉ざした心の奥にずっと思いを残せるように。願わくば裸の心を晒してもらえるように、凍える裸の心を包み込める人となれますように、語りかけることの意味を感じ精進したいと思います。



最後に協会の皆様にお心を寄せて頂きましたことは大きな勇気となり支えられました。ここに謹んで御礼を申し上げます。笑顔の蕾たくさん届けます。いつの日か朗読の力で満開の花を咲かせましょう！東北の地にも是非お越し下さい。人生の四季思い通りに巡りませんが、手と手を心で合わせ笑顔繋げてまいりませんか。 深謝。



千葉

目の前で我が家消滅

古内恵美子

グラリと来た時、始めはそんなに恐いとは思わなかったのです。自宅前の事務所にいた私は、その内に納まる多寡をくくっていました。ところが納まるどころか、段々に強さを増してくるので、私はもうすぐ様な気持ちで「どうぞもう許して。お願いだから鎮まって！」と必死で祈っていました。

2階建ての屋根と1階部分が全く逆方向へ、まるで巨大な粘土細工の様に不気味に振り回されていたからです。母屋に駆けつけてみると、瓦が玄関先や庭の敷石の上に山の様に散らばり、ガラスも飛び散っていて、改めて大変な事態が起きた事を思い知りました。姑を大声で呼ぶと、母は庭の隅の植木の根元にしがみつき、幸い無事でした。

停電のため別棟の居間で、カップ麺と懐中電灯と蝋燭で夜を明かしましたが、その時はまさか震源地が遥か東北沖で、しかも悲惨な大津波の襲撃を受けていようとは。巨大な土石流の様な津波と、それを追いかけるように炎の波が走るのを見て「日本沈没」の映像が頭をよぎりました。壁が割れ柱にまで亀裂が入ってしまった母屋を解体するまで、いつ、こぶしの花が咲き、いつ桜の花が散ったのか定かではありません。沢山の友人やご近所、親戚のお世話になり、協会からも励ましのお言葉やお見舞いを頂きました。心から感謝申し上げます。失った物もありますが、代わりに人の温かさを頂き、平凡で平和な生活が当たり前ではなかったのだと思い知らされた春でした。



仙台

「被災地の人」になって

長野淳子

ガラス越しの柔らかな陽が差し込む部屋の中にいると、一瞬現実を忘れてしまいそうになるほど、穏やかな普通の日々が戻ってきています。悪い夢を見ているような 呆然自失の日々を経て、否応もない現実として向き合った数カ月。この頃やっとあの日の事を振り返る事が出来るようになりました。

地震当日（11日）私は仙台市内中心部の仕事先で打ち合わせ中でした。14時46分それはやってきました。数日前から、少し強めの揺れが何度かあったので、初めは「まだだ」くらいの気持ちでした。しかしすぐに「これはいつもの揺れとはちがう」と気付き、6階から非常階段を降りました。「なにっ？なにっ？いったい何なの？」頭の中も揺れていました。今までに経験した事のない激しく長い揺れが収まって、家に1人である82歳の母が心配で、慌てて車で家に向かうものの、停電で信号が止まった道路は、家路を急ぐ車で大渋滞。いつもなら30分の道のりが、4時間半かかってやっと家に辿り着きました。途中よく行っていたレストランが看板だけを残して跡形もなく崩れていたのを見て、本当に大変な事が起きたんだと実感しました。それまで晴れていた空が、急に雪が激しく吹雪いて一面真っ白になり、地球がこのまま終わってしまうのではないかとさえ思いました。停電で真っ暗になった街中に延々と続く車の赤いテールランプが、印象的でした。その夜は、家の玄関先にとめた車の中で、余震の度に悲鳴をあげながら無事だった母と二人で、まんじりともせず一晩過ごしました。自宅は内陸部のため、ラジオが伝える「海岸に200～300人の遺体が打ち上げられた」という内容がいったいどういう意味なのかこの時はまだ理解できませんでした。夜中になって東京にいる娘とやっとメールにつながりひと安心。皆さんが送ってくださっていた、沢山のメールもやっと受信できてお返事におおわらわ。（皆さんから頂いた 安否確認や励ましのメールは、嬉しかったです。本当に！！）電

気もガスも水道もない中、懐中電灯の明かりを頼りに家族4人身を寄せ合って、布団で眠れることのありがたさをかみしめました。

あの日から数カ月後。

「神様は、乗り越えられない試練は与えない」といいますが、それにしても今回の試練はあまりにも悲しく、あまりにも大きな試練です。神様を少し恨みたくになりました。

皆さんから頂いた「頑張って」のメールも、「あんまり無理しないように」のお電話も私は、全部ありがたかったです。嬉しかったです。皆さんから頂いた「言葉」に、どんなに励まされた事か。どんなに勇気づけられたことか。どんなに支えられたことか。「言葉」は本当に大きな力を持っていると思います。

生かされた命を大切に前に進んでいくこと。それが今、私に出来る事だと思います。「言葉を心の窓にして」これからも生きていこうと思います。皆さんに笑顔でお目にかかれる事を楽しみにして、ペンをおきます。本当に、沢山の言葉を、沢山の応援をありがとうございました。



新橋

避難所での一夜

植田聖子

新橋ばる一で児玉クラスの講座を受けていたとき、突然大きな揺れが起きました。初めは教室の床にしゃがみ込み、さらに続く揺れに外に飛び出しますと、ばる一んの鉄筋の建物が左右にゆらゆら揺れていて足がすくみました。その後、新幹線の私は大阪に帰ることができず、ばる一が港区の避難所だったため、横浜の児玉先生と新宿方面から来られている会員の方々と共に一晩を明かすことになりました。地震が起こったのがレッスン中で、クラスの皆さんと一緒にいたことは不幸中の幸いだったと思います。夜は水や毛布が配給され、乾パンを初めて食べました。二週間後には再び上京し、プランタン朗読会のために暖房のない稽古場で稽古をしたり、大変な思いもしましたが、それだけに無事開催されたときは感極まる思いでした。色々なことがあり、強烈な体験でしたが、東京で皆さんと過ごさせて頂いた時間はとても貴重で、いっそう絆が深まったようにも感じています。



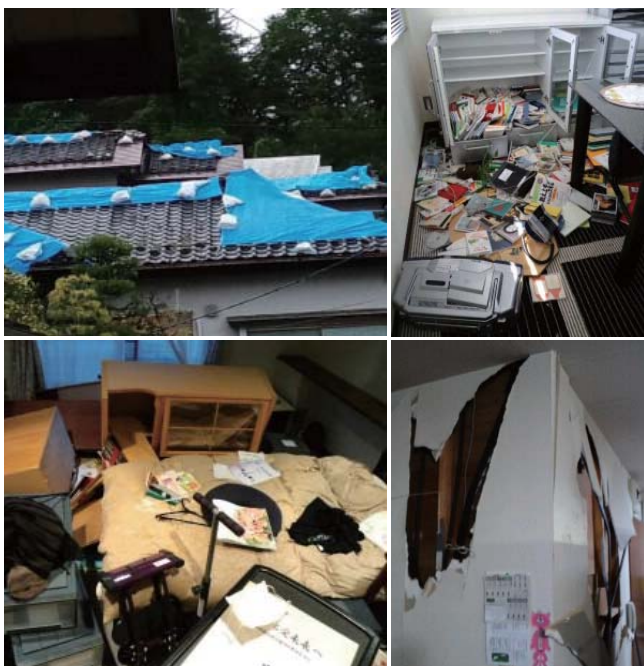
新宿

二度としたくない体験

富塚真佐子

3・11その時私は小2の孫が待つ娘宅へ向かうため、パロール役員会を途中退出。西武新宿駅で発車を待っていた。初めて体験する激しい揺れとガタガタ鳴る屋根、今にも落下しように揺れる照明と金属音に恐怖は倍増した。帰宅の足をやっと探し当てたバス停の長蛇の列に並びひたすら待った。列の前後男女7人の仲間ができ、皆半信半疑でバスを待った。挙句歩くことに決め23時青梅街道に出る。車道は車で埋め尽くされ全く動かず映画007のボンドばりに車の上を飛び歩ける状態だった。地図ぐらい携帯せねばと話合った夜だった。

※協会より被災者3名へお見舞金支給しました。



掲示板 会員の朗読会など活動情報

＜これまで＞2011.3～2011.5			
3月5日	宮内佳代子	「ポリオ撲滅に向けて・ポリオプラス」	横浜ブリックビル
3月12日	大谷智勢子	「菊池寛劇場」	サンクリスタル高松
3月27日	児玉教室有志	「プランタ朗読会」	高輪区民センター
4月4-7日	河崎早春	「楽屋」	シアター・コレド
4月5日	安倍真壽美	「語りとコントラバスの夕べ」	秋田県男鹿市ハートピア
4月16日	相原碧子	「1人朗読ステージ・一ミドリコー」	画廊喫茶メイプル
4月17日	松島邦	「東北関東大震災チャリティ朗読会」	渋谷・サニーテーブル
4月17日	河崎早春教室有志	「Tea time 朗読会」	渋谷宮益坂 カフェ SEPIA
4月26日	阿部俐奈、宮崎弥生	「第4回 Enjoy!The 朗読」	コレド・シアター
4月28日	田中泰子	「木漏れ日朗読会 NO.2」	西早稲田パークタワー
4月29日	安倍真壽美	「童話と音楽のやさしい時間」	秋田県能代市・感応寺
4月28,29日	田中邦子、早川とし子、松島邦、 宮内佳代子、渡部玲子	「読売新聞 × 日本語検定 in 羽田空港」	羽田空港第1旅客ターミナル
5月2日	山元智子	「語りの世界への誘い XIII」	横浜イギリス館
5月6日	青木ひろこ	「ケルトの響き、ハーブと民話の世界」	西荻窪音や金時
5月12日	田中泰子	「落語と朗読の会・第三回」	浅草橋雪柳
5月14日	安倍真壽美	「語りの時間」樋口一葉二題	秋田市ギャラリー・ココロボラトリー
5月14日	有賀康子、土岐志のぶ	「八重洲朗読会」	八重洲ブックセンター
5月20日	飯島晶子、黒川公代	「ヒルズサロン朗読会」	六本木メイスクラブサロン
5月21日	いま匡子	「朗読とギターの弾き語り」	秦野市丹沢美術館
5月22日	安田綾子	「各流花比べ舞踊会」	野方区民ホール
5月22日	安倍真壽美	「語りの時間」樋口一葉二題	秋田県大仙市ペレーネ大仙
5月25日	津田千代子、西林千枝子、田中泰子	「南風東風」	銀座教文館ウェンライトホール
5月28日	古内恵美子、本間恵子、三上実枝子	「八重洲朗読会」	八重洲ブックセンター
6月2日	大谷智勢子	「菊池寛と芥川龍之介の世界」	サンポートホール高松
6月4日	青木ひろこ	「宝生流謡曲と朗読」	栃木県総合文化センター
6月4日	穴澤修子	「ふるさと歳時記」	須賀川市 からくり民話茶屋
＜これから＞2011.6～2011.8			
6月25日	河崎早春、山本暁子	「八重洲朗読会」	八重洲ブックセンター
6月25日	田中泰子	「光でつなごうホタル祭り」	宮城県オリザの森
7月	相原碧子	「1人朗読ステージ・一ミドリコー」	カフェサウラ
7月2日	穴澤修子	「はたと共に民話の夕べ」	郡山市 はたる荘
7月9日	青木ひろこ	「木の実朗読会 vol.3」	栃木県総合文化センター
7月23日	白田敦子、田中邦子、山村都、渡部玲子	「八重洲朗読会」	八重洲ブックセンター
7月29日	飯島晶子	「未来への伝言」	自由学園明日館
7月30日	飯島晶子	「未来への伝言」	練馬真言宗 円光院
8月3日	阿部義高、小川弘子	「ヒルズサロン朗読会 小泉八雲特集」	六本木メイスクラブサロン
8月4日	田中泰子	「第四回落語と朗読の会」	浅草橋雪柳
8月10日	稲本由美子、佐々木富紀、津田千代子、 茂木英治、山本暁子、渡部玲子	「～今を語りたい この物語～浜田廣介の世界」	関交協ハーモニックホール
8月15日		「声に出す平和への祈り」	港区高輪区民センター
8月16日	穴澤修子	「デコ屋敷伝統の里語り」	郡山市 デコ屋敷大黒屋

ベルギーで「源氏物語」朗読

2月に在ベルギー日本国大使館「語りと音楽の世界」に出演させていただきました。初の海外公演であり、大使館初の日本語による朗読会でした。英語、仏語の解説に続き、まず生演奏に合わせて「朗読と大正琴のための一源氏物語」を朗読。休憩後は「雪女」「つるのおながえし」と続き、会場には和紙に墨で描いた作品も飾られ、朗読と音楽、美術の共演も実現しました。終演後「言葉の意味は完全に理解できないけれど、日本語の朗読は美しい音楽を聴いているようだ」と言われ、しみじみ嬉しく存じました。今後も日本語の響きや美しさ、優れた文化を伝えていきたいと思えます。大使館はじめ、お世話になりました多くの皆様に心より感謝申し上げます。

(秋山雅子)



お知らせ

●「被災者支援ボランティアチーム」の発足

今年度の協会活動の大きな柱の一つとして 被災者支援ボランティア活動（被災地朗読会やチャリティ等）を計画しておりますが、その企画をする核となるメンバー下記6名で「被災者支援ボランティアチーム」を5月31日発足させました。皆様から被災者支援に関するご意見等ありましたら、ボランティアチームメンバーへお気軽に声をお寄せ願います。

城所ひとみ、佐々木富紀、長野淳子、深澤真理子、本間恵子、山田和雄

●東日本大地震被災者支援義援金 170,521円

6月3日現在、皆様（会員13名、5朗読会募金箱）から義援金をお預かりしております。8月に日赤経由被災者にお届け予定しております。

●総会のお知らせ

下記のとおり「定例総会」を開催いたしますので、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

日時：2011年6月28日(火)午後2時

場所：港区赤坂区民センター

東京都港区赤坂4-1-8-1 3赤坂コミュニティーぷらざ内

Tel:03-5413-2711

●朗読講師の認定試験について

下記要領にて実施いたしますので、ご希望の方は8月10日(水)までに事務局へお申込願います。詳細は事務局へお問合せ下さい。

要件：児玉、壤、成瀬講師の3朗読教室受講済みの会員

試験：一次 上記朗読教室における受講状況・成果・適正等について判定（審査員：上記3講師）

最終 模擬朗読教室の講師を演じて頂きます。

試験日：9月～10月予定

(注.現在の認定講師は 朗読講師と名称変更いたしました)

●節電のため事務局夏季電話受付時間の変更

今年は節電(25%)のため 7月1日～9月30日の夏季電話受付時間を平日午前9時～午後2時(現在平日午前10時～午後4時)に変更いたしますのでご注意ください。緊急連絡は携帯：090-5512-1722で、できる限り対応いたします。

編集後記

●「3・11東日本大震災」で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。今号は予定の記事を取りやめ震災特集を組みました。

●掲示板 予想をはるかに超える多数のご連絡を頂き、9月以降公演は次号8月上旬に掲載することになりましたのでご了承ください。会員皆様の活発な朗読会には目をみはるものがあり、感動しております。

(佐々木富紀、早川とし子)

イベント情報

河崎早春の朗読ワークショップ イメージを言葉にのせる

7月16日(土)13時～15時

会場：港区内の教室

受講料：1回2000円

壤晴彦短期集中ワークショップ

俳優、演出家、演技指導者である壤晴彦による江戸文学体験講座

教材：雨月物語『青頭巾』

(日本伝奇文学の最高峰「雨月物語」を読み解き自らの感性で音読する)

日時：7月26日(火)1時～5時

7月27日(水)1時～4時

7月28日(木)1時～4時

会場：港区内の教室

受講料：15000円(会員)17000円(一般)

定員：30名

申込み開始：6月20日(月)10時(FAXにて)

6月八重洲朗読会 第61回

出演：山本暁子、河崎早春 ほか

6月25日(土)16:00～17:30

会場：八重洲ブックセンター本店8階

入場料：無料

第2回ヒルズ・サロン朗読会

小泉八雲 特集

出演：蒔村三枝子・阿部義高・小川弘子

8月3日(水) 18時～20時

参加料：3000円(お茶・ケーキ付)

定員：28名

声に出す平和への祈り

内容：○港区の戦争体験のお話

○献読

○朗読 無言館・画学生の絵とエッセイ

○被爆エノキのコカリナ演奏

日時：平成23年8月15日(月)開演：14:00

会場：港区高輪区民センター 1F 区民ホール

共催：港区・NPO日本朗読文化協会

会員情報

2011年2月～5月に入会された方は以下の7名です。
伊藤富美子、稲葉慶子、内堀芳江、江並美文、剣重敬子、
武藤千恵子、安永朱美(敬称略・50音順)

朗読ニュース 2011年初夏号(通巻26号)発行日2011年6月14日

発行 NPO 日本朗読文化協会 理事長 城所ひとみ

〒107-0052 東京都港区赤坂3-8-8 赤坂フローラルプラザビル3F

TEL:03-3584-4451 FAX:03-3584-4452

e-mail:npo-rodoku@rodoku.org http://www.rodoku.org/

瀬戸内寂聴 訳「源氏物語」



源氏物語 上原まり

瀬戸内寂聴訳

千年前の王朝の世界へ誘います

- ◆ 空蟬・夕顔
■ KICG15070
- ◆ 明石・松風・薄雲
■ KICG15071
- ◆ 若紫(上・下)
■ KICG15072
- ◆ 紅葉賀・花宴
■ KICG15073
- ◆ 葵(上・下)
■ KICG15074
- ◆ 玉鬘(上・下)
■ KICG15075



好評発売中

CD全6タイトル
定価・各2,000円(税込)



源氏物語

瀬戸内寂聴訳

心と心が響きあう朗読の魅力

- 朗読：NPO日本朗読文化協会会員
宮崎弥生・秋山雅子・若瀬弥永子
福田雅世・飯島晶子・安倍真壽美
坂本有子・加藤敏子・松島邦
- | | |
|------|-----------|
| ① 桐壺 | ① 末摘花 |
| ② 藤壺 | ② 朧月夜 |
| ③ 空蟬 | ③ 六条の御息所 |
| ④ 夕顔 | ④ 明石 |
| ⑤ 若紫 | ⑤ 源氏物語の魅力 |
- (お題) 瀬戸内寂聴

好評発売中

KICG-5068~69
CD2枚組
定価3,000円(税込)

【第42回】日本レコード大賞【企画賞】受賞作品!

昔話ふるさとへの旅

21世紀へつなげたい「ふるさとの昔話」。
全国47都道府県を地元の言葉で現地録音。

全47タイトル
好評発売中
各定価¥2,000(税込)

温かく、優しく迎えてくれる
「ふるさと」がいろいろあります。



【CD全47タイトル】■KICG-3181~3227 ジャケット表紙絵：鈴木ひろえ

市原悦子さんのナレーションで始まる「昔話」。

7年の歳月をかけて現地の語り手によって、生の声を
現地収録いたしました。貴重な伝承文化遺産である「昔話」は、
大人や子供達にとって大切な「心のふるさと」です。

7年の歳月をかけて現地で収録した全国47都道府県の「ふるさとの昔話」の数々。
かつて「昔話」は、子供達への楽しみや教訓、日常生活意識を反映しながら語られて
来ましたが、情報文化の発達した今日、「昔話」は大変貴重な日本の伝承文化財産とな
っています。
このCDでは全国のそれぞれの地域に昔から伝わる「昔話」を中心に、現地の語り手によ
って地元の言葉で現地収録しました。
大人や子供達にとっていつまでも「心のふるさと」として、今後私達の生活の中で育まれ
ていきますことを、心から願っています。

美しい
日本語

全65タイトル好評発売中!

※内容は別冊「日本のこころと品格」10タイトルです。



美しいことばと豊かな心

Roudoku Series

朗読CDシリーズ心の本棚

【第一弾】

【第二弾】

CD全15タイトル 各¥2,000円(税込) CD全15タイトル 各¥2,000円(税込)

【第三弾】日本の詩歌

CD全15タイトル 各¥2,000円(税込)

【第四弾】名作を聴く

CD全10タイトル 各¥2,000円(税込) / 2枚組各¥3,500円(税込)

【第五弾】日本人のこころと品格

CD全10タイトル 各¥2,000円(税込)

■詳しい資料をご希望の方は キングレコード株式会社 〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-3 ストラテジックマーケティング本部 制作第二グループ 03-3945-2119

キングレコードの朗読CDはお近くのレコード店でお求め下さい。又は下記へ直接お申込み下さい。

●下記によるご注文の商品の送料(¥600)はおお客様のご負担となります。

フリーダイヤル

0120-340-670

インターネット

http://www.kingrecords-eshop.jp (キングレコード・イー・ショップ)

FAX

03-3945-9086

ハガキ

〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-3 キングレコード(株)内キングダイレクトアクセス行



KING RECORDS

※キングレコードの情報は
http://www.kingrecords.co.jp

h/samTV